

思考を深め、発信する子どもの育成

～学びと生活をつなげる新聞活用～

上越市立稲田小学校

1 NIE実践のねらい

新聞を活用した教育活動（NIE）を取り入れ、新聞のもつ特性を生かした教材開発や授業改善を行うことで、当校の目指す子ども像の具現化を目指している。NIEを方途として、学びと生活をつなげ、自ら学ぶ力、郷土愛、かかわる力などの資質・能力をはぐくむキャリア教育を推進する。

授業では、資料の読取や周りとの交流を通して、知識や経験からくる自分の考えを再構築し、発信する力を育てていく。「思考を深め、発信する子どもの育成」を目指し、子どもたちが自ら意欲をもって学び、進んでその学びを表現し、学びと生活をつなげる授業の在り方や活動・場の工夫の仕方について、授業実践を通して探る。

「学びと生活をつなぐ」とは、「学習への新聞の活用を通して、学習意欲や課題意識を醸成し、知識・理解、思考・判断・表現力を深め、学んだことを自らの考え方や生き方に生かすこと」ととらえる。実践を通して、対象に主体的にかかわり、自らの考えを深め、表現する子どもの姿を評価する。

2 研究内容

「思考を深め、発信する子どもの育成」を目指し、学びと生活をつなげる授業の在り方や活動・場の工夫の仕方について、学校教育全体の活動や授業実践を通して探る。

- (1) 社会生活を実感的にとらえられるよう、新聞を活用して「親しむ」「考える」「使う（作る）」をキーワードに学校全体の取組を進める。
- (2) 国語科、生活科、総合的な学習の時間を核に、NIEの3分野「新聞制作学習」「新聞活用学習」「新聞機能学習」の単元開発、学習指導の工夫・改善を図る。

新聞制作学習

- ・学習したことや調べたことをまとめ、発信・伝え合い・交流活動として学ぶ学習

新聞機能学習

- ・新聞をメディアとしてとらえ、新聞の特徴や制作の仕組みなどを学ぶ学習

新聞活用学習

- ・新聞を教材化するなどして、内容そのもの、または、資料・情報として活用する学習

<今日的課題から>
 生きる力に必要な能力や態度
 (思考力, 表現力, 自ら学ぶ態度)
 の育成を図っていく必要がある。

<児童の実態から>
 論理的な思考や自分の言葉で説明
 を求められる問題に関して不得手。
 思考力, 表現力の育成が必要。

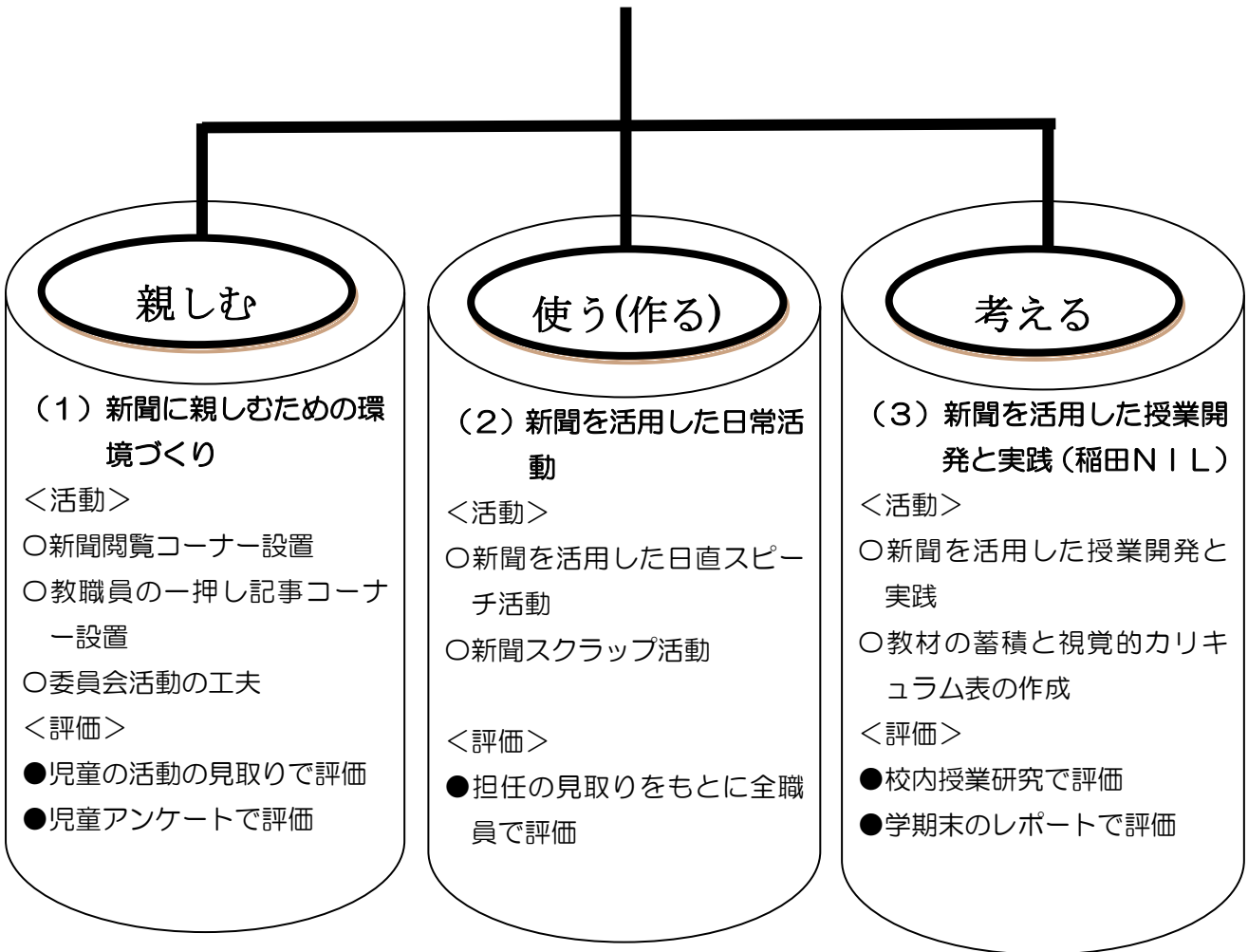
<キャリア教育の視点から>
 新聞を活用し, 学習と社会生活との
 つながりを意識することで, 社会
 参画意識の育成を図る。

研究主題 「思考を深め, 発信する子どもの育成」

思考を深め, (知識をもつ, 新しい考えをもつ, 自分の考えを再構築する)
発信する (話し合う, 意見文を書く, 新聞制作をする) 子どもの姿

- ・自分の知識を基に多様なテキスト(新聞、雑誌、パンフレット等)から新しい知識を読み取り, 考えようとする子ども
- ・集団で交流し, 協働的な学びを通して問題解決に取り組む子ども
- ・新しい考えをもったり, 自分の考えを再構築したりする子ども
- ・学んだことを基に自分の考えを友達や地域等に発信しようとする子ども

稲田N I Eを支える3つの柱



3 実践の概要

(1) 新聞に親しむための環境づくり

親しむ

① 新聞閲覧コーナー設置（図書室，3階中央廊下）

子どもたちが新聞を読める場所を図書室の一角に作った。新聞を図書室に置いて自由に閲覧できるようにした。

高学年が新聞を読みやすいように今年度から，3階中央廊下にも新聞を置き，毎日，担当教諭がおすすめの記事をペンで囲み，子どもたちの関心を高められるようにした。



写真1 新聞を読む子どもたち

② 教職員の一押し記事コーナー設置（2階中央廊下）

2階中央廊下に，教職員の一押し記事の紹介コーナーを作った。一週間に1回，記事と一緒に教職員のコメントを載せ，子どもたちが感想を付箋に書いて貼れるようにした。



写真2 新聞の感想交流

(2) 新聞を活用した日常活動

使う（作る）

① 新聞を活用した日直スピーチ活動

朝の会で新聞を活用した日直スピーチ活動を行った。低学年は，5W1Hを使い，分かりやすい構成で話している。中・高学年は，「私の新聞ニュース」として，新聞で気になる記事を基に感想を話している。

② 新聞スクラップ活動

自主学習の取組の一つとして，新聞スクラップ活動を行った。提出の際は，担任が子どもたちにコメントを入れている。新聞スクラップ活動に取り組むことで，自分から進んで情報を集め，情報にかかわろうとする子どもたちを期待した。



写真3 新聞スピーチ活動

(3) 新聞を活用した授業開発と実践（稲田NIL）

考える

子どもたちに付けたい力を明らかにして，教科やねらいを考え，「新聞制作学習」「新聞機能学習」「新聞活用学習」の授業開発を行った。

<低学年>新聞の投稿作品から学ぶ。新聞を作る。等
 <中学年>記事を用いた学習。構成を学び新聞を作る。等
 <高学年>記事を用いた学習。意見文を新聞社に投稿。等
 また「新聞を活用した授業」「活用できそうな授業」を確認し，視覚的カリキュラム表に付け足した。



図1 NIE視覚的カリキュラム表


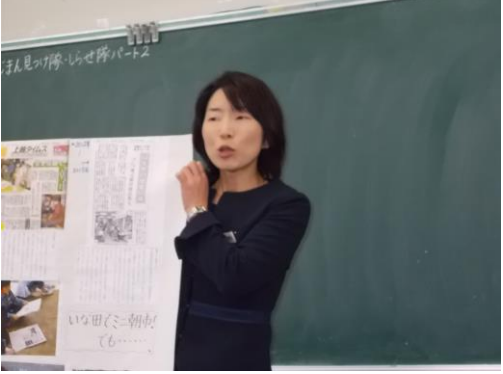

＜新聞活用で育てたい力と NIE の 3 分野における授業実践＞



	低学年	中学年	高学年
新聞制作学習	<p>親しむ、使う（作る）</p> <p>学校に発信 新聞として校内に掲示</p> <p>「知ろう、伝えよう、野菜のこと」 （1年：生活科） 「いきもの、大好き」（1年：生活科） 「わたしたちの野菜畑」（2年：生活科） 「スマイル畑で夏野菜」（2年：生活科）</p>	<p>地域に発信 新聞として地域に配布</p> <p>「稲田の自まん見つけ隊」 （3年：総合的な学習の時間） 「関川を知ろう、学ぼう」 （4年：総合的な学習の時間）</p>	<p>社会に発信 意見文として新聞社に投書</p> <p>「未来がよりよくなるために」 （6年：国語科） 「和食のよさを発見しよう」 （5年：総合的な学習の時間）</p>
新聞活用学習	<p>子ども新聞・新聞 子ども投稿欄（詩）</p> <p>「やさしいの詩を書こう」（2年：国語科）</p>	<p>子ども新聞・新聞 新聞一面</p> <p>「新聞を作ろう」（4年：国語科）</p>	<p>新聞 随筆、投稿欄（意見文）</p> <p>「すじ道（論理）を確かめる」 （5年：国語科） 「わたし風枕草子」（5年：国語科） 「意見と根拠をとらえる」 （5年：国語科）</p>
新聞機能学習		<p>考える</p> <p>「絵や写真を比べながら読んでみよう」 （3年：国語）</p>	<p>「言語感覚を豊かにしよう」 （6年：国語科）</p>
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の中から、自分の関心のある記事を見つけて感想をもったり、友達の記事と比べたりする力。（思考力） ・体験したことや考えたことなどを話したり、200字程度の文章としてまとめる力（表現力、発信力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読んで自分の考えをもったり、自分の考えを整理して友達の記事と比べ、よりよい考えにまとめたりしていく力（思考力） ・自分が調べたことを相手に伝えるように話したり、400字程度の文章としてまとめる力（表現力、発信力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の新聞記事を読んで自分の考えをもったり、記事をもとにした友達の見解と比較、集約することでよりよい考えを導き出したりする力（思考力） ・目的や意図に応じ、自分の考えを分かりやすく話したり、800字程度の文章としてまとめる力（表現力、発信力）

図2 NIE 3 分野における授業実践図

＜各学年の実践＞

	国語科	生活科、総合的な学習の時間
1年	 <p>写真4 対話タイムでいいところ発見</p>  <p>写真5 書画カメラで記事の発表</p>	<p>生活科「いきもの だいすき ～うさぎさんとなかよし～」</p> <p>新聞制作学習</p> <p>親子合わせて9匹のうさぎの世話や触れ合いを通して、たくさんの気づきが生まれた。そこで、お家の方や他の学年のみなさんに教えてあげたい「うさぎのひみつ」を国語で学習したオノマトペを生かして新聞にまとめる学習をした。新聞作りでは、事前に書いた記事を隣の友達と紹介し合い、音や様子などで詳しく伝わったことや初めて知ったことなどを伝え合った。そしてもっと聞いてみたいことを質問し合うことで、さらに記事が詳しくなる子もいた。「どんなふうに顔や耳のお手入れをするの?」「走りながらどんな風にジャンプするの?」と質問すると、子どもたちはとても上手にうさぎの動作を真似て教えていた。オノマトペを活用することで自分が伝えたいうさぎの可愛らしさや動作が読み手に詳しく伝わるようになることを、記事作りを通して学ぶことができた。</p>

<p>2年</p>	<p>国語「したことをいきいきと」～やさいの詩を書こう～新聞活用学習</p> <p>かがやき農園での野菜栽培の体験の中から、書きたいことを選んで、詩を書く学習を行った。新聞に掲載された小学生の投稿作品のよさを学び、畑の準備や、苗植え、収穫、カレーパーティーを題材にして、詩を書いた。音や様子を表す言葉を入れると、したことが生き生きと伝わった。「支柱を立てて、パチッパチッ」「キュウリを切ったよ、トントントン」など、楽しい表現の詩ができた。できた詩は野菜新聞に載せ、多くの人に読んでもらった。</p>	<p>生活科「野菜新聞をつくろう」新聞制作学習</p> <p>自分で育てた野菜の様子を伝えたいという思いから野菜新聞を作った。自分が伝えたいことを記事にして、写真や絵を入れて伝えた。また、記事の内容を分かりやすくするためには、記事に「見出し」を付けるといいことに気づき、言葉を吟味して見出しを付け、分かりやすく伝えようとした</p>  <p>写真6 知ったことを記事に書く子</p>
<p>3年</p>	 <p>写真7 新聞の構成について指導</p>  <p>写真8 ピラミッドチャートを利用して考える子どもたち</p>	<p>総合的な学習の時間「稲田の自まん見つけ隊～店や施設で見つけた自慢を伝えよう～」</p> <p>新聞制作学習</p> <p>町探検から総合の学習が始まった。見学とインタビューを基に、店や施設ごとにミニ新聞を作ったり、見つけた自慢を家の人に伝えるため、親子で「稲田発見遠足」を行ったりした。稲田発見遠足で訪れる店や施設の自慢を紹介するため、子どもたちはミニ新聞やインタビューシートを読み返し、紹介文を作って遠足に臨んだ。家の人から、「初めて知りました。」「よく調べてありました。」といった感想をもらい、達成感をもつことができた。</p> <p>2学期には、様々な自慢を見付けたいという願いの下、大ケヤキや雁木、祭りなどを調べた。稲田のことに詳しい地域の方から話を聞いたり、過去の新聞記事から情報を得たりし、たくさんの自慢を見つけた。子どもたちは、もっとたくさんの人に稲田の自慢やよさを知ってもらいたいと願い、グループ新聞作りに取り組んだ。限られた紙面にどの内容を書けるか、トップ記事は何にするかなど、子どもたちは何度も話し合いを重ねた。自分が紹介したい内容やその理由をじっくり考えたり伝えたりする中で、子どもたちは地域に対する思いを深めた。一連の活動を通し、情報を収集する力や整理する力、まとめて発信する力を付けた。</p>

<p>4年</p>	<p>国語「新聞を作ろう」 ～見学してきたことを報告しよう～</p> <p style="text-align: center;">新聞制作学習</p> <p>社会科で見学に行った浄水場やダムについて、見てきたことや分かったことを新聞にまとめて報告する学習を行った。「どうしたら分かりやすい新聞になるだろう。」という疑問を解決するため、本物の新聞を見ながら、「見出し」「吹き出し」「リード」「写真」「イラスト」など、分かりやすくするための工夫を見付けた。見学メモを見て友達と情報を確認したり、記事の下書きを読んだりして、アドバイスし合った。友達の見出しの工夫を参考にしたり、文を直したりしながら、より分かりやすい新聞を書くことができた。</p>	 <p>写真9 アドバイスし合い、よりよい構成を考える子</p>
<p>5年</p>	<p>国語「すじ道（論理）を確かめる」</p> <p style="text-align: center;">新聞活用学習</p> <p>構成メモを基に、筋道の通った文章を書く学習を行った。誰もが自分の経験や考えを基に構成メモを書ける題材として、「応援」をテーマにした新聞の投書を提示した。教科書にない、新聞の投書欄に掲載された小中学生の意見文を活用したことで、児童の学習への関心が高まった。また「応援」に対する賛成・反対の全く異なった主張の記事を提示したことで、児童に様々な思考を促すことができた。さらに、ワークシートを活用することで、自分の思考過程を視覚化することができ、児童は自分の主張を筋道立てて考えられるようになった。この学習を通し、テーマに沿った賛成・反対の意見文や、根拠や理由を基にした意見文を書くことができるようになった。</p>	<p>総合的な学習の時間「和食のよさを発見しよう」</p> <p style="text-align: center;">新聞活用学習</p> <p>和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたという新聞記事を話題にして、なぜ登録されたのかを考え、登録の理由を写真資料や既習の学習から考え、少人数での交流を通して多様な考えに気付いたり共感したりした。多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重、健康的な食生活を支える栄養バランス、自然の美しさや季節の移ろいの表現、正月などの年中行事との密接なかかわりなど、本当の登録理由に迫る内容を練り上げていった。子どもたちにとって「当たり前」「昔っぽい感じがする」と思っていた和食であるが、世界で認められていることに誇りを感じ、和食を大切にしていかななくてはいけないと考えた。</p>  <p>写真10 自分の考えを生き生きと発表する子</p>

6年

国語『本物の森』で未来を守る
～教材文と新聞記事の内容を比較して
自分の考えをまとめよう～

新聞活用学習

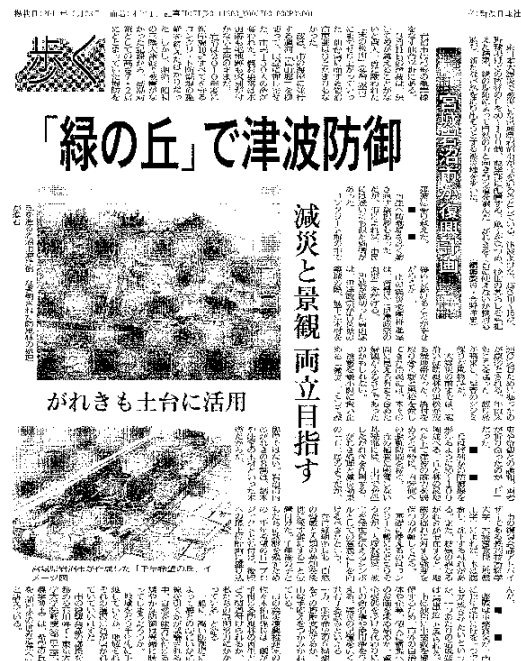
教科書の教材文には、東日本大震災のガレキと土を組み合わせ「森の防波堤」を造り、自然と共存していこうという提案が書かれている。教材文を学習した後に、「森の防波堤」のデメリットが一部書かれている新聞記事2つを提示し、一面的な読み取りから多面的な見方・考え方があることを知ることで子どもたちが考えを深めていくことをねらった。さらに、「人工の防波堤」により被害がほぼ皆無であった普代村に関する新聞記事も提示することで、「森の防波堤」と「人工の防波堤」のどちらにもメリット・デメリットがあることを学んだ。教材文と新聞記事の情報を合わせて、東北に防波堤を造るのであればどちらがよいか話し合った。安全・環境・耐久性・可変性など様々な点から意見交換がなされる中で、一人一人が自分の意見を持ち東北の防波堤造りについて考えをまとめていった。その後は、より当事者意識をもって考えるために、上越市にも津波被害が予想されているという新聞記事を提示し、『上越市に防波堤を造るなら』というテーマで話し合った。「やはり命が大事」「景観も大切にしたい」「防波堤を造るための材料や土地が…」と東北に関する話合いの意見を生かして自分の意見を再構築していった。最後に、教材文や新聞記事の内容を根拠にして、話合いで決定した自分の意見を理由付けしながら意見文としてまとめた。お互いの意見文を読み合い、理由と根拠がきちんと示されることで意見がより納得できるものになることを学んだ。



写真11 自分の想いを可視化する子どもたち

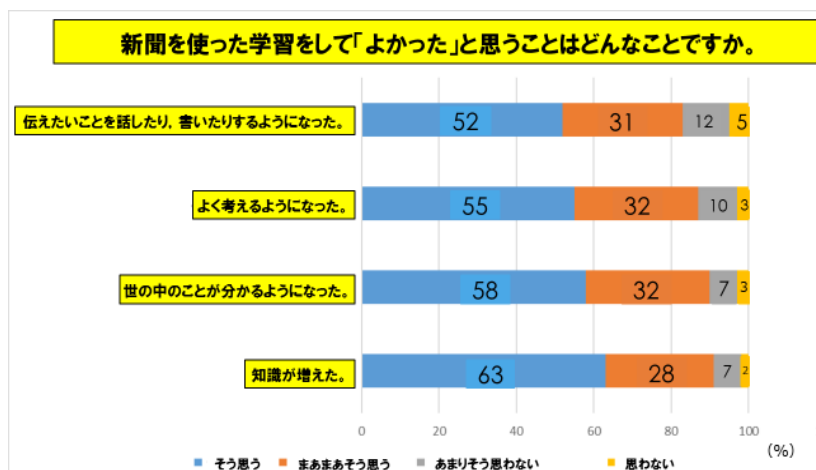


写真12 自分の考えを伝え合う子どもたち

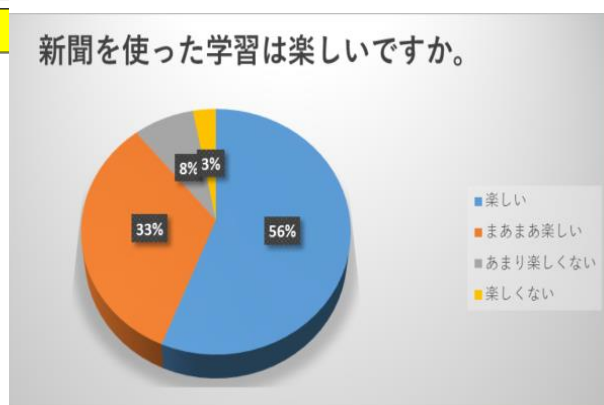


2011年12月3日 新潟日報社

4 成果と課題



グラフ1 児童アンケート結果①



グラフ2 児童アンケート結果②

(1) 成果

「親しむ」「使う(作る)」「考える」をキーワードに、国語科、生活科、総合学習を核にした授業実践や環境づくり、日常活動の工夫・改善を図ってきた。特に『考える』をキーワードにした取組では、視覚的カリキュラム表、学習モデルの作成、授業実践の蓄積により、学びを「学校に発信」「地域に発信」「社会に発信(新潟日報に掲載された意見文6編)」する深まりの姿が見られた。前出1学年の実践では、視点を絞った発見カードの蓄積が、知的な気付きやオノマトペを活用した記事づくりへの意欲・表現力につながった。3学年の実践では、新聞作りへの意欲と、可視化された思考ツールの活用が相まって、伝えたい記事を選ぶ話し合い過程が整理しやすくなっていた。6学年の実践では、対比的な新聞記事の提示による課題設定が、子どもの思考を揺さぶり、活発な意見交流につながった。さらに、郷土、上越の地であったらどちらを判断するか、自分ごととして主体的に考える姿が見られた。「いなだN I L」(18実践)の蓄積を通し、新聞を活用した教材開発や課題提示の工夫が動機付けとなり、子どもたちの学びに向かう力を引き出すことができた。併せて、課題に対して自分ごととして思考・判断し、表現する力につながったことを職員一同実感している。

アンケート結果においても「新聞を使った学習が楽しい」と思う子どもが89%と多かった。また、新聞を活用した学習を工夫したことで「よく考えるようになった(思考)」と肯定的評価をした子どもが87%、「伝えたいことを話したり、書いたりするようになった(発信)」と肯定的評価をした子どもが83%であった。「親しむ」「考える」「使う(作る)」をキーワードに学校全体の取組を工夫して進めたことで、子ども自身がよく「思考」し「発信」したと捉えている。

(2) 課題

読み取りの個人差が大きく、記事の内容によっては、じっくりと時間をかけて取り組ませていく必要がある。高学年は、新聞を読んで「親しむ」活動から、新聞を「読み込む」活動に転換していく必要がある。児童は、新聞の内容に対して、間違いないと安心感をもっている。今後、「本当にそうなのか。」と疑問をもちながら批判的な読みができる子を育てていく必要がある。今後も、新聞の特性を踏まえ、効果的な活用の実践を積み重ね、子どもたちの深い学びにつなげる手立てを検証していきたい。